

青山学院大学で、一般学生を対象に食料・農業・農村に関する講座が開設され、9月21日、オリエンテーションが行われた。

近年、食の安全・安心の高まりや、新たな生き方として農業を志したり、「田舎で働き隊」等に応募する若者が増えていくが、都会の学生に対する農業・農村に関する情報は必ずしも十分とはいえない状況だ。

そこで、農学を専門としない学生にも、客観的で幅広い情報を提供する必要があると、野中和雄

氏(中山間地域フォーラム副会長)、清水慎一氏(株JTB常務)など産学民官の有識者と、青山学院大学WTO研究センター所長の岩田伸人教授が連携、計画し、講座が正式の科目として開設される運びとなった。農林水産省も講師の派遣に協力する。

講座は、「日本農業とWTO―食・農・里の新時代を考える」という名称。同大学の3・4年次の学生ならどの学部でも

聴講でき、2単位の科目としてこの9月から半年間、毎週火曜日に、計14回行われる。授業は、わが国の食料・農業政策

や世界の食料問題から、水、グリーン・ツーリズム、森林山村再生まで広範にわたっており、岩田教授ほか、実務経験豊富な産学民官の有識者がボランティアで分担して行う。

なお、このような一般学生を対象とし

一般学生を対象に

食料・農業・農村講座が開設

た食・農に関する講座は、放送大学でも、今年11月に面接授業(世田谷学習センター)として開設されることが決定している。

青山学院大学における食料・農業・農村講座の授業計画は以下の通り。

▽「オリエンテーション」岩田伸人・青山学院大学WTO研究センター所長(9/21)
▽「農業農山村の新たな可能性と課題」

野中和雄・中山間地域フォーラム副会長(9/28)

▽「世界の食料問題と日本の食料自給力」末松広行・農林水産省林野庁林政部長(前官房政策課長)(10/5・12)

▽「世界と日本の農産物ビジネスの潮流」栗原康剛・三菱商事(株)国際戦略研究所課長(10/19・26)

▽「水資源・水環境・水文化」太田信介・前水資源機構副理事長(11/2)

▽「企業の農林業参入と地域再生」米田雅子・慶応大学教授(11/9・16)

▽「グリーンツーリズムの新たな可能性」清水慎一・(株)JTB常務取締役(11/30・12/7)

▽「森林・山村再生と地球環境問題」加藤鐵夫・日本森林技術協会専務理事(12/14)

▽「バイオ技術等が拓く食・農・里の未来」丸山清明・前中央農業総合研究センター所長、「緑提灯」の発案者(12/21・1/11)